

都市再生整備計画 事後評価シート
西箕輪地区

平成28年12月

長野県伊那市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	伊那市		地区名	西箕輪地区			面積	1,136 ha	
交付期間	平成24年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	451.3百万円	国費率	0.4			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	道路：市道羽広大萱線、市道学校南線、市道藪原南1号線 高次都市施設：西箕輪地域交流センター								
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業：西箕輪図書室整備、公民館活用事業、サンビレッジ駐車場整備								
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		基幹事業	-			-			-		
			提案事業	-			-			-		
	交付期間の変更		当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-			
変更			-		-							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	地域交流センターの利用者数	人	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	×	あり	● 目標が達成できなかった原因として、地域活動に参画する人材の固定化や高齢化に伴う団体活動の縮小化等が考えられる。しかし、地域交流センターの整備に伴い新たな公民館講座を創設したことにより住民同士の新たな交流による地域の活性化が図られており、今後の利用者数の増加が見込まれる。(別紙様式2-2「まちの課題の変化」参照)	-	
				平成22年度	平成27年度	-	16,503		なし			
	指標2	体育施設利用者数	人	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	×	あり	● 基準年度に当該体育施設において国民体育大会地区予選やソフトバレーボールの全国大会が開催された影響から、基準年度の利用者数は特異値(H21は26,833人、H23は26,830人)であり、適切な目標値の設定とならなかった。しかし、駐車場の整備により収容台数を49台から95台へ増台したため、施設の利用者数は増加傾向にある。また、駐車場の拡張により、課題となっていた周辺道路への路上駐車はなくなり、近隣住民の安全な住環境が確保された。	-	
平成22年度				平成27年度	-	27,364	なし					
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
4) 定性的な効果発現状況	・施設のバリアフリー化により高齢者にも利用し易い施設となったため、新たな講座の創設や各種講座の開催回数の増加により、住民活動が活性化している。 ・施設の暖房器具である薪ストーブの燃料となる薪の調達を地域住民が担っているが、間伐などで調達した木を薪として有効活用しているため、山の整備が進み、地域の里山づくりに寄与しているとともに、住民同士の新たな交流も生まれている。											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス	地域交流センターの基本設計、運営方法検討にあたっての住民参画(建設推進委員会の開催)		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、施設運営に係る様々な場面で住民参加による協働のまちづくりを推進する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	西箕輪地域協議会の運営		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地域の個性を大切にし、地域の課題を自ら解決出来るような仕組みづくりを進める。				

様式2-2 地区の概要

西箕輪地区(長野県伊那市) 都市再生整備計画事業の成果概要

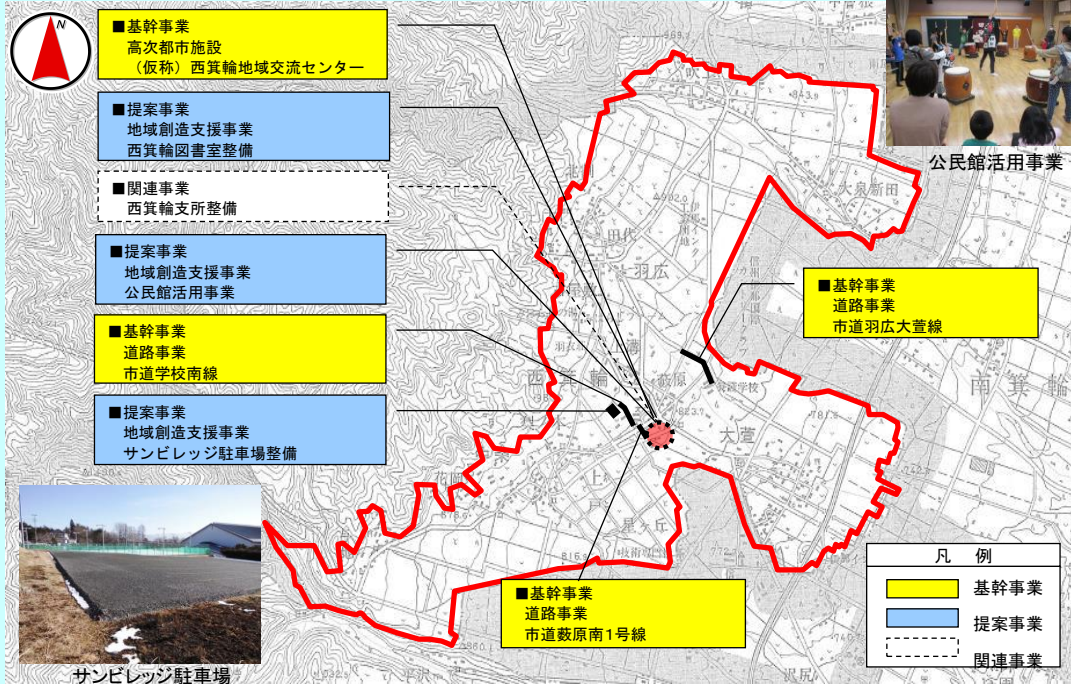
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
地域住民の交流や活動の促進による「市民が主役」のまちづくりの推進	地域交流センター利用者数	単位:人/年 17,125 H22	24,000 H27	16,503 H27
	体育施設利用者数	単位:人/年 31,612 H22	36,000 H27	27,364 H27
		単位: H	H	H
		単位: H	H	H
		単位: H	H	H



地域交流センター(西箕輪めくもり館)



図書室(西箕輪めくもり館施設内)



市道学校南線



市道数原南1号線



市道羽広大萱線

まちの課題の変化

- ・防災拠点の機能を有し、地域住民の交流及び地域活動の拠点となる新たな地域交流センター(西箕輪めくもり館)が完成した。
- ・地域交流センターへのアプローチ道路(市道数原南1号線)や周辺道路(市道羽広大萱線、学校南線)を整備することで、高齢者から子どもまでが安全で快適に過ごせる生活環境が整った。
- ・約90台分の地域交流センター利用者用駐車車を整備したことにより、手狭であった駐車場の問題が解消され、周辺道路への路上駐車は見られなくなった。
- ・地域住民の交流や活動を促進するための新たな公民館講座(地域食材を使った料理教室、地域のことを学ぶふるさと講座など)が創設され、活動の活性化につながっている。
- ・地域交流センターに導入した薪ストーブの燃料となる薪の調達を地域住民が担っているが、間伐などで調達した木を薪として有効活用しているため、山の整備が進み、地域の里山づくりに寄与していると同時に、住民同士の新たな交流も生まれている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・新たに整備された地域交流センターを活用し、住民のつながりをより一層深めるとともに、市民が主体的に行う活動を支援しながら「市民が主役のまちづくり」を進める。
- ・サンビレッジ(体育施設)の日常的な利用促進、効果的な維持管理を行い、住民の交流や活力の創出に努める。
- ・防災拠点として地域交流センター及びサンビレッジを中心とした防災訓練や避難訓練を定期的の実施し、災害時に円滑な対応ができるよう総合防災力の強化に努める。